

3.(4)今後のLCAへの取り組み

3.(4) - 1.本研究におけるLCI分析の位置付け

本研究においては、電線業界として初めて共同調査により電線・ケーブルに関するLCI分析を実施した。その結果、少なくとも参加した6社においてほぼ共通のデータベースが構築され、今後のLCA研究にも大きな資産を構築できた。電線・ケーブル分野においては、未だまとまったLCIデータベースがなかったことから考えると、今回の研究が果たした役割は大きいと言える。

3.(4) - 2.LCIの今後の運用

今後は、今回構築したデータベースを維持、運用して行く以外に、今回作成したデータベースであっても、今後再検討し、より充実したものにして行く努力を怠りなく継続実施する必要がある。また、電線・ケーブルに使用されている材料は非常に広範囲にわたり、今回の研究で全てを網羅し尽くしたわけではないことから、勿論、より多くの関連する材料、製品等のLCIを収集して行く努力も必要である。他にも本研究においてはシステム境界を製品の製造段階で出荷包装までとしているが、今後は使用中から廃棄までの段階を含めたデータベース構築が必要となるであろう。更に、本研究においては環境負荷物質として最もポピュラーなCO₂のみを選択したが、今後は他の環境負荷物質についても検討を広めて行く必要も残る。

LCAについては、ISO 14040においても、「この規格は、LCAがまだ開発の初期段階にあるとの認識に立っている。影響評価など一部のLCA技法の構成段階は、相対的にまだ揺籃期にある」と書かれており、今後、LCAそのものの手法も広く情報を収集して行く必要がある。

3.(4) - 3.データベースの公開

環境問題が世界中の関心事として広まっている中、電線・ケーブルの一部に関するLCIデータベースを構築した現在、このデータをより多くの研究者、技術者、業界関係者に公開することにより、電線・ケーブルを使用している製品やシステムに応用されることが理想であろうと考えられる。この意味で、今回作成したデータベースを早急に公開し、関係者のご批判と利用に供する努力が必要である。

3.(4) - 4.電線業界における活用

電線業界においても、最近検討が進んでいるエコラベルやグリーン会計と言ったシステムを取り入れようとしている企業は少なくない。その意味で、電線業界においても早期にLCA手法をマスターし環境保護のための努力をより充実させて行くと共に製品の開発、拡販に役立てて行くことが必要である。

ただ、LCAは環境影響を評価するツールであり、詳細には各企業がDfE(Design for Environment)、Life Cycle Designと言った概念を取り入れることにより、各企業の生産する製品に対する環境影響把握、保護を目指すことが必要である。